



生水副市長に請願書を渡す院長(中央)

# 倉敷市副市長と懇談

= 2次救急医療機関の実情伝える =



昨年11月、当院山本院長と亀山事務長の二人が、2次救急医療機関の実情をとりまとめた要望書を手に、倉敷市役所を訪問しました。

生水副市長と懇談し、診療報酬の増額のための働きかけと、医師の働き方改革※への対応にともなう市内の救急医療体制の維持に関する要望を行いました。

新規開設の要望を求める要望を行いました。

副市長から

は、地域の医療機関の苦労は各所から聞いており、市としても共有し、県内の自治体とともに岡山県へ財政

地元記者の方に向けて  
広報しました

## 第15回 医療・介護連携学習会

地域連携・患者サポートセンター主催

「糖尿病の基礎知識について」



講師を務めた大崎看護師(左)と司会の安藤看護師(右)

地域連携・患者サポートセンターでは、医療と介護のシームレスな連携を目指して、地域の医療・介護に携わる方に向けて定期的に学習会を開催しています。このたび、10月20日(金)に今年度2回目の学習会を行いました。

た。

オンラインで行い、テレマは「糖尿病の基礎知識」でした。約20名の方に参加いただき、当院大崎看護師より、糖尿病の自覚症状、三大合併症(糖尿病網膜症・糖尿病腎症・糖尿病神経障害)、糖尿病と動脈硬化の関係についてお話し下さいました。

(地域連携企画室

西村真弓)

かなか聞く機会がないので学び直しができよかったです」「糖尿病の入居者様も多いので、緊急時の対応など役に立つ内容でした」などの感想をいただき、医療・介護ともに実りある学習会となりました。

内被災状況の収集、②模擬被災患者が治療を受けるまでのトリアージタグの運用について訓練を行いました。トリアージとは、患者の重症度を判断し、適切な診療エリアを決定していくことです。タグはそれを記録したものです。

地震発生の館内放送の後、模擬患者が正面玄関フロアに運び込まれ訓練が開始となりました。一方、2階講堂では、事務長が災害対策本部を設置し、順次本部要員を任命し、館内の被災状況の情報収集を行いました。



玄関フロアでの訓練のようす

10/21午後2時、職員による2023年度災害対策訓練を実施しました。



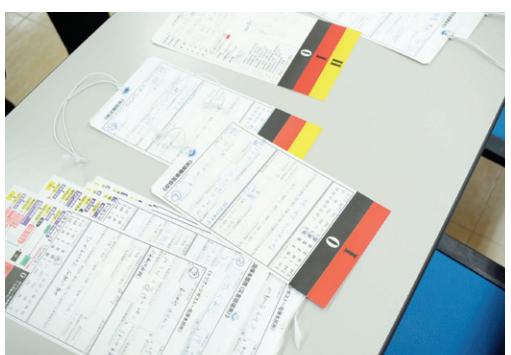
重症対応を行う職員たち



院内の被災状況を一枚の紙にまとめることで次の指示につながります

訓練終了後に回収したトリアージタグには、患者さんの症状がよくわかるようしっかりと記載されていました。参加者からは、「模擬患者を配した訓練だったのに、リアルに感じることができた。」「日常診療と違うため、あたふたしてしまった、日頃の学習が大切と思った。」「本部機能の構築と情報整理を同時にするには、もう少し工夫が必要。」との意見が出され、災害に備えることの大切さを再確認する機会となりました。

(災害対策委員会)



訓練で使用したトリアージタグ